

会議録

作成日 令和5年5月24日

日時	令和5年5月24日(水) 10:30 ~ 11:30	場所	特別養護老人ホームすこやか苑 2F 多目的ホール
会議名	令和5年度 第1回 運営推進会議		
出席者	入居者代表・家族代表・地域包括支援センター職員 施設長・生活支援課長(生活相談員)・副主任支援員(介護支援専門員) ※地域代表である民生委員は体調不良にて欠席		
<p>1 開会 ※簡易な自己紹介実施</p> <p>2 挨拶 施設長</p> <p>本日は、第1回運営推進会議にお集まりいただきましてありがとうございます。 新型コロナウイルス感染防止対策のため、開催できない年もありましたが、今日、こうして入所者様代表を含めて本来の形で開催できますことを大変嬉しく思います。 コロナ禍ということで、面会や外出、地域の方々等との交流も制限せざるを得ない状況が続いておりましたが、ようやく5類への移行となり、明るい兆しが見えてきました。当苑でも今年度は感染症対策をしっかりととりながらも、面会や外出、地域の方々との交流も本来の姿に戻していきたいと思っております。</p> <p>ユニット内へご家族様はじめ、ボランティアや地域の皆様がお越しになることにより、入居者様にとってもよい刺激となることは勿論、職員にとっても第三者の目が常にあることを意識しながら緊張感を持ちつつ、様々な方と情報交換できる場となり、良い刺激となることと考えております。特に当苑はユニット型施設ということで、基本理念の冒頭に“家庭に近い環境の中で”とうたっております。施設運営をしていく中で、ご家族様との情報共有は欠かせないものとなりますし、地域の方々からのご意見も貴重なものと考えております。</p> <p>この運営推進会議におきましても、日頃の運営状況をお伝えし、皆様からのご意見を頂戴しながら、よりよい施設運営に繋げていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 運営推進委員委嘱について ※別添「令和5年度 特別養護老人ホームすこやか苑 運営推進会議について」参照 ・運営推進会議の位置づけの確認、委員会の構成メンバー、会議日程を確認した。第6回の委員会は、家族連絡会と合同開催予定。</p> <p>(2) すこやか苑の運営状況について ※別添「令和5年度第1回特別養護老人ホームすこやか苑運営推進会議資料」参照 ・副主任支援員より報告した。</p> <p>Q：ビデオ研修について、1回に費やす時間はどの程度か。(地域包括支援センター職員) A：ビデオ視聴と記録時間を含めて1時間程度としています。昨年度までは、専門職(看護、介護)が</p>			

研修講師として活動していましたが、資料作成等の業務負担の軽減を図るため、今年度は試行的にフォローアップ研修ネット配信サービスと1年間契約しました。15分、30分、1時間半コースの研修内容があり、受講後の小テスト等もあります。これにYoutube等も織り交ぜながら研修を計画、実施しています。

※入居者代表より

・何もかも良くしてもらっています。これほど幸せなことはなく、とてもありがたいと思っています。何にもお返し出来ずに申し訳なく思っています。

(3) 令和4年度特別養護老人ホームすこやか苑事業報告(案)について

※別添「令和4年度特別養護老人ホームすこやか苑事業報告(案)」参照

・生活支援課長より報告した。

Q：職場環境の改善には人材確保と定着が課題とあるが、介護機器や福祉用具を活用することの意味合いはどのようなものか(家族代表)。

A：体力面や腰痛等の身体的苦痛は離職の要因の一つとして考えています。介護機器や福祉用具を導入することで、身体的苦痛の軽減や予防を図ることで職場環境の改善に取り組んでいます。また、“抱え上げない、持ち上げない、引きずらない”介護を目指すことで、職員・入居者双方にとって安心・安全・快適な介護を目指すことでノーリフティングケアを推進しています。

Q：P6、Ⅱ短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護(1)概況の“自律”とは。(地域包括支援センター職員)

A：入所者が自らの意思で行動を起こせるという意味です。

4 その他

・家族代表の小形氏については、会議終了後施設の見学を実施した(案内者：生活支援課長)。

・次回委員会は、令和5年7月12日(水)10:30～を予定とするが、事前に連絡を取り、皆さんが参加できる日時に変更する場合もあり。

5 閉会

令和5年度 特別養護老人ホームすこやか苑 運営推進会議について

運営推進会議とは…

青森市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例、準用第六十一条の十七（地域との連携等）により「利用者、利用者の家族、地域住民の代表者、指定地域密着型介護老人福祉施設が所在する市の職員又は当該指定地域密着型介護老人福祉施設が所在する区域を管轄する～省略～地域包括支援センターの職員、地域密着型介護老人福祉施設について知見を有する者等により構成される協議会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。ただし、利用者等が参加する場合にあっては、テレビ電話装置等の活用について当該利用者等の同意を得なければならない。）（以下この項において「運営推進会議」という。）を設置し、おおむね二月に一回以上、運営推進会議に対し活動状況を報告し、運営推進会議による評価を受けるとともに、運営推進会議から必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

1 実施体制

区 分	役職名
入所者代表	入居者代表
家族代表	家族代表
地域住民の代表者	浜館地区民生委員・児童委員
地域包括支援センターの職員	青森市東部地域包括支援センター 管理者
施設職員	特別養護老人ホームすこやか苑 施設長
施設職員	特別養護老人ホームすこやか苑 生活支援課長（生活相談員）
施設職員	特別養護老人ホームすこやか苑 副主任支援員（介護支援専門員）

2 会議日程

回 数	開催日
第1回	令和5年 5月24日（水） 10：30～
第2回	令和5年 7月12日（水） 10：30～
第3回	令和5年 9月13日（水） 10：30～
第4回	令和5年11月15日（水） 10：30～
第5回	令和6年 1月17日（水） 10：30～
第6回	令和6年 3月16日（土） 10：30～

※ 第6回は、家族連絡会と合同開催

○入所状況

■入 所	定員29人	
■稼働率	3月(90.1%) ※入所2名 退所1名	4月(96.4%) ※入所2名 退所0名
■平均介護度	3月(4.3)	4月(4.2)
■平均年齢	3月(90.5歳)	4月(91.1歳)
■入所申込状況	3月(3件)	4月(4件)
	※総待機者数 55名(5/23付け)	
■短期入所	定員10人	
■稼働率	3月(88.0%)	4月(81.0%)
■平均介護度	3月(2.2)	4月(2.1)
■平均年齢	3月(89.1歳)	4月(89.9歳)

○事故報告について

※ 毎月安全委員会にて対策検討

■令和5年

区 分/月	3月	4月
ヒヤリハット	6	2
アクシデント	8	14
事故(Lv3以上)	0	0

※ 事故Lv3以上：通院を伴った事故ほか市役所へ事故報告したもの

ヒヤリハット・アクシデント内容

区 分/月	3月	4月
転倒・転落	7	10
原因不明の傷	4	2
服薬	0	2
爪切りミス	1	0
その他	2	2

○身体拘束廃止への取り組みについて

※ 3月16日に入居した方、該当ケース1件あり。現在も継続中。

個別の状況による 拘束の必要な理由	経管栄養（胃瘻）を流す管に触れ、抜去等の危険性あり
身体拘束の方法 （場所、行為（部位・内容））	① 腹帯または腹巻を装着 ② 経管栄養を流す場及びベッド上で両手にミトンを装着
拘束の時間帯および時間	① 入浴時以外の常時 ② 経管栄養を流す時間帯およびベッド臥床時
特記すべき心身の状況	嚥下障害にて経口摂取できず、胃瘻を造設。認知症にて胃瘻についての理解困難。両手は自由に動かすこと可
解除の予定等について	毎月身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束を軽減する方法、解除することを検討。

○職員研修等

- ・ 3/8（水） 介護記録の書き方研修 9名参加
 - ・ 3/2（木）～3/31（金） 高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修①未受講者研修 11名
 - ・ 4/26（水） 新任（異動）職員研修 2名参加
 - ・ 4/26（水） 救命救急研修① ※新任職員研修含む 23名参加
- ※ 上記ほか、法人・外部研修へ数名参加

○ボランティア受入

- ・ 4/29 草取り・ウエス作成 2名

○全体行事やユニット行事等実施状況（3月・4月）

- 3/1（水） 創作クラブ
- 3/10（金） 苦情相談日
- 3/11（土） 家族連絡会
- 3/22（水） 書道クラブ
- 3/22・4/26（水） 書道クラブ
- 4/27（水） 音楽体操クラブ
- 4/19（水） 健康診断（胸部レントゲン）
- 4/12（水） 健康診断（採血）
- 4/21（金） 苦情相談日

※上記ほか、各ユニットにおけるお誕生日会、ひな祭りなど実施。

令和4年度

特別養護老人ホームすこやか苑事業報告書

第9 特別養護老人ホームすこやか苑

1 概況

すこやか苑の運営にあたっては、「基本理念」と「基本方針」の実現に向けて、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者の能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

利用者の権利擁護の推進にあたっては、年2回外部講師を招いて研修会を実施し、併せて虐待防止・身体拘束廃止委員会を中心に年2回、虐待の芽チェックリストで自己評価後、全体で振り返りと気になる言動についての検討を行い、虐待防止に努めた。

地域や家庭との結びつきについては、11月～12月にかけて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したため、一時的に交流や面会を中断した時期もあったが、感染状況を見ながら再開した。面会については、タブレット面会からスクリーン越し、対面での面会等柔軟に対応した。ボランティアについても間接的な作業の受入れを行った。

経営面では、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護で目標としていた、平均利用者数 28.6 人を 1.4 人下回る 27.2 人となった。短期入所生活介護では平均利用者数 8.83 人を目指したが、1.73 人下回る 7.1 人となり、何れも目標数値に届かなかったが、居宅介護支援事業者及び保健医療機関等と連携を図り、地域密着型入所者生活介護では利用申込者数の増。短期入所生活介護では、昨年度より 6 人増の 13 人の新規利用があり、新型コロナウイルス抗原検査を実施した積極的な受入れも行った。

2 重点事項の実施状況

(1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実

今年度は個別性の強化を図るため、ユニット単位での行事に力を入れ、個別の期待や要望に応える支援に努めた。

施設サービス計画についても、3ヶ月毎のカンファレンスを開催し、より現状に即したサービスの提供に努めた。

(2) 医療的ケアの充実

看取りケアを含む、医療的ケアの研修会を実施するとともに、喀痰吸引等の研修についても新たに1名が資格取得し、他3名については追加研修を受講し、有資格者は7名となった。

有資格者の手技が衰えないよう、積極的に実務に取り組むよう努めている。

(3) 人材確保と定着

新聞折り込みチラシや近隣町会への宣伝活動に積極的に取り組み、事務局キャリア支援課と連携し、介護福祉士養成校へのPR活動を行い人材確保に努めたが、採用後まもない離職も多く、定着についての課題が残った。

(4) 安定的な経営基盤の確保

入居相談や利用申込件数は増加傾向にあるが、職員のマンパワー不足もあり、相談後の入居希望者との面談や入所判定会議の開催が滞ることで、空床期間の短縮化を図ることができず、稼働率に影響をきたした。

(5) 職場環境の改善

介護機器については、3種類試用したほか、移乗ボード等の各種福祉用具を試用し、各ユニットの現状に合わせ、必要とされる用具を揃えることができた。また、ノーリフティングケアへの意識、技術の向上から腰痛軽減にも繋がった。

ユニット間の応援体制については、マンパワー不足もあり応援体制を組むことが難

しい状況となり、多職種が連携を図ることで介護現場の現状を維持することはできたが、職場環境の改善には人材確保と定着が最重要課題となった。

3 職員の状況

職名	施設長	医師	生活支援課長 (生活相談員)	看護職員	介護職員	介護支援 専門員
人数	1	1 (非常勤)	1	3	²⁰ 【22】※2	1
職名	栄養士	機能訓練 指導員	事務員	専任当直員		計
人数	1	1	1	3		33

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。
※管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【22】に含む。

4 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

名称	実施時期等	参加者数	備考
新任職員研修会	4/1、4/4、 4/27 12/14～15 12/19	計4人	高齢者施設の基本的知識として、施設理念・事業計画、ユニットケア・介護保険制度、高齢者虐待防止・身体拘束廃止・リスクマネジメント、移乗技術、高齢者の疾病と緊急対応、防災対応について
救命救急研修	4/27、12/14	計24人	急変・緊急時の対応方法、観察項目、報告手順など
感染症対策研修	5/25、10/26	計31人	食中毒や感染症予防策、嘔吐時処理手順、ガウンテクニックなど
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	6/22、1/25	計42人	中央短期大学講師や社会福祉士から高齢者虐待防止について
リスクマネジメント研修	7/27、12/28	計17人	アクシデント・ヒヤリハットの区別のつけ方や誤薬ゼロを目指して
口腔ケアに関する研修	8/24	計12人	歯科衛生士より、要介護高齢者に対する口腔ケアについて
看取りケア研修	9/28	計12人	がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師からこれからの看取り～平穏死～などについて
利用者支援研修	2/15	計9人	元明の星短期大学教授より利用者支援に求められる「個別性」について
記録の研修	3/8	計9人	中央短期大学講師より介護記録の書き方について

5 行事

(1) 年間行事・クラブ活動

名称	実施時期等	参加者数	備考
花見ドライブ	4/20	21人	桜川通りをドライブし、桜川八甲緑地や陸軍墓地で下車し、花見を実施した

ミニ運動会	6/15	33人	ユニット対抗で玉入れや物品渡しリレーを行った
ねぶた観覧	7/20	33人	すこやか苑内でねぶた運行を行った
夏祭り・居酒屋	8/20	31人	夏に因んだアトラクションや飲食を提供し、季節を感じてもらった
文化祭	11/2	32人	職員、入居者による芸能発表や書道や華道の作品展示、お茶会を開催した
新年会	1/11	33人	新年に因んだアトラクションを提供し、季節を感じてもらった
ミニどらやき作り	3/15	27人	入居者が植付けから収穫まで行った、すこやか苑産大納言でミニどらやきを調理し、美味しく摂取した
ユニット内行事：母の日会、父の日会、ドリカムケア（個別支援）、誕生日会、七夕会、丑の日会、新茶を飲もう、十五夜会、敬老会、ハロウィン、秋の果物大収穫祭、リンゴ風呂、クリスマス会、節分会、ひなまつり会			

(2) クラブ活動

名称	実施時期等	参加者数	備考
書道クラブ	月1回	延112人	4/13、5/18、6/22、7/27、8/17、9/21、10/12、11/16、1/25、2/15、3/22
創作クラブ	年3回	延90人	5/11、9/28、3/1
音楽体操クラブ	年5回	延136人	4/27、6/29、8/24、10/26、2/22

(3) 会議・各種委員会等

名称	実施時期等	参加者数	備考
全体会議	年12回	各回約15人	施設長からの指示事項ほか、協議伝達等
ユニットリーダー会議	年12回	各回5人	ユニットリーダーを中心にユニット運営について協議
ユニット会議	毎月1回	各回約5人	各ユニット内の運営やケアについて協議
給食会議	年12回	各回7人	嗜好に合わせた献立、味付け、調理方法（食形態）の検討
サービス担当者会議	入所139回 短期入所17回	各回約7人	施設サービス計画や短期入所生活介護計画書作成など介護方針の協議決定
運営推進会議	年6回	各回6人	施設運営の現状報告、課題等への助言等（利用者はリモート形式で参加した）
苦情解決協議会	年4回	6人	各種苦情解決へ向けての協議（苦情：0件）
苦情解決第三者委員相談日	年9回	延17人	第三者委員が輪番制で訪問し、苦情要望の聞き取りをリモート形式で実施
入所判定会議	年5回	各回9人	入居者の決定に当たり、決定過程の公平性・透明性を確保
リスクマネジメント・感	年12回	各回	月ごとの事故分析・対策検討

染症対策委員会		約 10 人	食中毒・インフルエンザ・新型コロナウイルスなど感染症対策について協議
虐待防止・身体拘束廃止委員会	年 4 回	各回 約 6 人	虐待が疑われる案件や身体拘束が疑われる案件等について協議
褥瘡・排泄ケア委員会	年 6 回	各回 約 6 人	褥瘡予防改善に向けた検討 排泄ケアについての問題点を検討
ノーリフティングケア推進委員会	年 6 回	各回 約 8 人	介護機器やノーリフティングケアの導入に向け検討及び腰痛調査、職場環境調査の実施
看取り介護実施委員会	年 6 回	各回 約 10 人	看取り介護の振り返りと指針やマニュアルの見直し
研修委員会	年 7 回	各回 約 6 人	内部研修・研究発表に関する企画・実施
広報委員会	年 3 回	各回 約 6 人	広報発行に係る編集など
防災委員会	年 3 回	各回 5 人	防災マニュアルの整備や防災訓練の企画運営など

6 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考																												
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全利用者	体温・血圧・SPO2・一般状態の観察等																												
体重測定	毎 月	全利用者																													
配置医診察	毎週木曜日	全利用者	利用者の診察・薬の処方・検査や通院等の指示等																												
通院・往診	随 時	通院が必要な利用者	(通院) <table border="1"> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>13 人</td> <td>内科</td> <td>4 人</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>5 人</td> <td>精神科</td> <td>9 人</td> </tr> <tr> <td>皮膚科</td> <td>7 人</td> <td>神経内科</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>0 人</td> <td>認知症外来</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>耳鼻科</td> <td>0 人</td> <td>循環器内科</td> <td>4 人</td> </tr> <tr> <td>歯科</td> <td>0 人</td> <td>救命救急</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>脳神経外科</td> <td>1 人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※歯科往診 2 人 ※延人数、短期入所利用者除く	泌尿器科	13 人	内科	4 人	整形外科	5 人	精神科	9 人	皮膚科	7 人	神経内科	0 人	外科	0 人	認知症外来	2 人	耳鼻科	0 人	循環器内科	4 人	歯科	0 人	救命救急	3 人	脳神経外科	1 人		
泌尿器科	13 人	内科	4 人																												
整形外科	5 人	精神科	9 人																												
皮膚科	7 人	神経内科	0 人																												
外科	0 人	認知症外来	2 人																												
耳鼻科	0 人	循環器内科	4 人																												
歯科	0 人	救命救急	3 人																												
脳神経外科	1 人																														
口腔ケアに係る技術的助言及び指導	月 1 回	看護 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言指導																												
機能訓練	週 2 回程度	全利用者	機能訓練計画書による個別機能訓練 短期入所利用者は集団体操																												
訪問理美容	第三水曜日 ほか	151 人 ※延人数	訪問美容：毎月第三水曜日 訪問理容：毎月第三木曜日																												

7 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練 地震・夜間火災想定・消化・ 通報・AED 使用訓練)	5/25	52 人	職員 27 人、利用者 25 人
防災訓練 (水害想定・BCP 勉強会)	7/20	35 人	職員 21 人、利用者 14 人
防災訓練（火災想定）	10/19	45 人	職員 21 人、利用者 24 人

8 地域（住民・ボランティア）との連携と地域貢献

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
虹ヶ丘町会 春の清掃	5/8	5名（職員）	地域貢献
虹ヶ丘町会 ひまわり通り花壇の花植え	5/29	6名（職員）	地域貢献
車椅子清掃・室内の拭き掃除	5/9	2名	ボランティア
清拭布の裁断・公用車の清掃	5/30	2名	ボランティア
車椅子清掃・室内の拭き掃除	6/6	2名	ボランティア
環境整備	6/13	2名	ボランティア
浜館地区社会福祉協議会 こころの縁側事業 レクリエーション講師	10/17	2名（職員）	地域貢献
車椅子清掃・室内の拭き掃除	10/19	1名	ボランティア
浜館地区社会福祉協議会 こころの縁側事業 レクリエーション講師	10/21	2名（職員）	地域貢献
公用車の清掃・清拭布の裁断	11/16	1名	ボランティア

9 実習の受入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
2022年度青森明の星短期大 学介護実習	9/6～9/25	2人	青森明の星短期大学2年生ⅡC介 護実習
令和4年度青森県立保健大 学社会福祉基礎実習	7/6	4人	青森県立保健大学1年生社会福祉 基礎実習

令和4年度青森県立保健大学ソーシャルワーク実習	8/8～8/24 9/1～9/15	1人	青森県立保健大学3年生ソーシャルワーク実習
-------------------------	----------------------	----	-----------------------

10 事業概要

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

(1) 概況

ユニットケアの理念に基づいた個別支援に重点を置き、入居前と入居後の生活が連続したものになるよう、利用者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重しながら各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き自律的な日常生活を営むことができるよう支援した。

令和4年度の入退居状況については、入居が7人、退居が8人という状況であった。平均介護度は4.1、平均年齢は90.5歳だった（令和4年度末時点）。

稼働率は、平均93.0%で前年度比-3.7%となり目標を下回る結果となった。第3四半期にはクラスターの発生に伴い、基礎疾患を抱えている入居者2名が入院に至った。

その後も、介護スタッフの欠員補充が整わない状況が続き、稼働率の低下に繋がった。

【入退居内訳と稼働率】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居(人)	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	2	7
退居(人)	1	0	0	1	0	2	0	1	0	2	0	1	8
稼働率(%)	92.9	93.1	93.1	91.2	88.4	95.4	94.9	92.8	90.2	92.2	89.6	90.1	93.0

(2) 定員

29人（10人×2ユニット、9人×1ユニット）

II 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

(1) 概況

居宅の要介護者等に、利用者の自律生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できるユニットケアを提供するとともに、その家族の身体的、精神的負担を軽減できるようサービスを提供した。

短期入所生活介護においては、前年度同様、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、受入れや利用方法に制限を設けた。

令和4年度の新規利用者は13人、平均介護度は2.9、平均年齢は89.2歳だった（令和4年度末時点）。

稼働率は、平均71.5%で目標を下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症対策を継続する中で、居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等と連携しながら、新規利用者の獲得と継続性のある利用に努め、昨年度より6人増の13人の新規利用者を獲得したが、長期的利用には結びつかなかった。

【入退所内訳と稼働率】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居(人)	0	0	1	1	2	3	3	5	0	6	4	10	35
退居(人)	1	1	0	0	3	2	6	4	1	2	2	8	30
稼働率(%)	76.0	65.8	67.6	72.3	77.7	70.6	68.3	63.3	65.8	70.0	77.4	83.6	71.5

(2) 定員

10人（10人×1ユニット）

※上記ほか、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

Ⅲ 入退所状況

地域密着型入所者生活介護		短期入所・介護予防短期入所生活介護	
定員	29人	定員	10人
令和4年度内延入所者数	7人	令和4年度内延利用者数	98人
令和4年度内退所者数	8人	令和4年度内延利用件数	1681件
令和4年度末現在の入所者数	28人		